

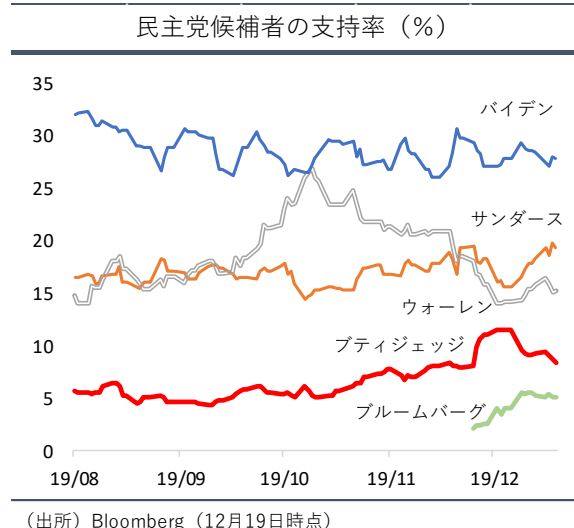
2020 年米国大統領選の注目候補 ブティジェッジ氏（サウスベンド市長）

米国ではいよいよ大統領選イヤーに突入するが、民主党候補者の絞り込みが一向に進んでいない。現時点の支持率トップは中道派のバイデン前副大統領、以下、急進左派のサンダース上院議員、ウォーレン上院議員と 70 歳以上の候補が続く。こうした中、弱冠 37 歳で国政経験のないブティジェッジ・サウスベンド市長が、①最有力候補バイデン氏の伸び悩み、②実現性の高さに強い意識を置いた堅実な政策路線、③巧みなディベート戦術により急速に支持を集め始め、現在ではメディアや有識者の間で「4 強」の一角として扱われるようになってきた。政治経験の乏しさを指摘されることがあるが、地元サウスベンド市を訪ねてみると、市民からの信頼や期待を得ながら着実に市政を進めている印象。国政との違いはあるが、大統領選をどこまで上り詰められるのか、今後も注目したい。

主な民主党大統領候補者とブティジェッジ氏躍進の背景

2020 年 11 月 3 日に行われる大統領選挙まで残り 1 年を切り、米国内は選挙戦モードに突入している。共和党側は、ウクライナ疑惑に関する弾劾裁判の行方に留意が必要ではあるが、順当にいけば現職トランプ大統領が候補となる見込みである。対する民主党は、現時点で 15 人の候補者が残っている。民主党では国民皆保険や富裕層への増税などを掲げる急進左派と中道派が激しくぶつかり合い、候補者の絞り込みが進んでいない。今後、民主党の大統領候補は、各州の予備選挙（及び党員集会）が順次行われる中で、選挙人を多く獲得した者に一本化されていき、7 月の民主党全国大会で共和党候補と戦う正式な候補として承認される。まず 2 月 3 日のアイオワ州党員集会から始まり、3 月 3 日には選挙人の多いカリフォルニア州やテキサス州などの予備選挙が実施されるいわゆる「スーパーチューズデー」を迎える。

現時点の支持率¹は、中道派のバイデン前副大統領が 20% 台後半で最も高く、急進左派のサンダース上院議員（20% 弱）、ウォーレン上院議員（15% 程度）が続いている。いずれの候補者も政治・社会経験が豊富であるものの、70 歳を超えている。このような候補者レースの中、弱冠 37 歳で国政経験のないブティジェッジ・サウスベンド市長が 10 月以降急速に支持を集め（10% 弱）、現在では米国の各種メディアや有識者の間では「4 強」の一角として扱われるようになってきた。ブティジェッジ氏は民主党の予備選挙・党員集会の序盤戦であるアイオワ州、ニューハンプ



(出所) キャンペーンページ

¹ 米国政治専門サイト「Real Clear Politics」による民主党支持者に対する各世論調査の平均値。

シャー州においてトップ争いに絡むとの観測も出ており、同氏への注目度はさらに高まりそうである。

ブティジェッジ氏躍進の背景として様々な要因が考えられ、例えば①最有力候補バイデン氏の伸び悩み、②実現性の高さに強い意識を置いた堅実な政策路線、③巧みなディベート戦術が挙げられる。①最有力候補であるバイデン氏はブティジェッジ氏と同じ中道派で、前副大統領という知名度の高さ、豊富な実績により党員からの支持率トップを維持してはいる。しかし、トランプ大統領の弾劾に発展しているウクライナ疑惑で親族の関与が取りざたされている。更に、選挙戦前半のテレビ討論会では支持率の高い候補者が守勢に回りやすいこともあり、バイデン氏はこれまでのところ、更なる支持の獲得につながるような効果的な発言ができていない。②政策面に関してブティジェッジ氏はバイデン氏と同様中道派と位置付けられ、急進派勢が掲げる大胆な政策転換ではなく、むしろ実現性の高さや現行政策と顕著に乖離しないことに強い意識を置いた主張を展開している。例えば、水圧破碎によるシェールオイル・ガス開発の規制対象については、新規案件に限定すること（急進左派勢は既存施設も対象に含めると主張）、ヘルスケア政策の拡充において財政負担の拡大につながる国民皆保険の導入には慎重姿勢を取っていることなどが挙げられる。③ブティジェッジ氏の巧みなディベート戦術に関しては、例えば 10 月のテレビ討論会においては国民皆保険などを論点にしてウォーレン氏を追い込むことに成功、急進左派の勢いが止まり中道派（特に清新なイメージのあるブティジェッジ氏）へ支持が流れる一因となった。

もっとも、若いブティジェッジ氏の政策実行力の高さについて疑念が残っていることは事実である。そこで筆者は今回、米国出張の中でブティジェッジ氏が市長を務めるインディアナ州サウスベンド市を訪問し、地元での市政実績や市民からの評価を探る機会を得た。

異色の候補が治めるインディアナ州サウスベンド市

サウスベンド市は中西部インディアナ州の北部に位置し、人口 10 万人程度の小都市である。かつて GM など BIG3 に続く自動車メーカーであったスチュードベーカー社が本社を構え、自動車など製造業が盛んであったが、スチュードベーカー社の工場廃業を機にサウスベンド市は衰退。いわゆるラストベルトの一角と言える。サウスベンド市民の大卒以上の比率は約 24%と全米平均（約 31%）を下回り、世帯収入は約 3 万 7000 ドルと全米平均（約 5 万 8000 ドル）の 6 割強の水準となっている。また、65 歳以下で医療保険に未加入の割合も約 16%と全米平均（10%）を上回るなど、データで見ると生活環境の相対的な苦しさが見える。

実際に現地を訪問すると状況の深刻さを肌で感じる事ができた。まず、広大な農場を眺めつつサウスベンド市の中心付近にある住宅街に向かってみると、手入れが施されておらず空き家と思われる住居がたくさん目に入ってきた。米国では特に中間層以上の家庭において住居や芝生の手入れに力を入れることが一般的だけに、その光景は強烈な第一印象となった。さらに、元々工場などであったとみられる廃墟が数多く残り、道路のメンテナンスも不十分であるなど、すさんだ雰囲気ばかり感じられた。訪問したのは平日の午後二時頃であったがこの間、道を歩いている人は一人も見かけなかった（下記写真はいずれも筆者撮影 2019 年 12 月 6 日）。



街の中心部に入ってもさして状況は変わらず、市役所の前ですら歩いている人はまばらで、日中にも関わらず徒歩で移動することに若干の恐怖を感じずにいられなかった。

ところが、南北 300 メートルほどの限られた街の一角においては道路がきれいに舗装され、交通整理、治安維持を担うスタッフが多くいた。このエリアには小売店や飲食店などが複数立地しており、市民も徒歩で買い物などを楽しんでいる様子を垣間見た。実はこのエリアはブティージェッジ氏が市長就任以来、肝いりの政策として実施していた安全で歩ける街の象徴とされ、ほかにも前述のスチュードベーカー社の工場跡地をリノベーションし、ベンチャー企業などが集まるテック集積地へと生まれ変わらせた。このように、ブティージェッジ氏は市の強い財政制約の中でも、民間資金の活用を含めメリハリをつけながらエリア限定で目玉政策を実現させ、そのことを通じて市の魅力を回復させるための取り組みを続けているように見受けられた。



市長として高評価でも大統領としては未知数？

複数の市民に話を聞いてみると、総じてブティージェッジ氏の市長としての実績を高く評価しており、また多くの市民が市長への高い信頼と期待を持っているとのことだった。サウスベンド市はスチュードベーカー社の工場廃業以降、人口減少が続いていたが、ブティージェッジ氏が市長に就任した 2012 年以降は下げ止まり、若干持ち直している。他方、市民との会話の中で大統領選に話題が及ぶと、サンダース氏など他の候補者を支持する声が多く聞かれた。市政レベルでは、苦しい財政事情をやり繰りしながら現実に根差した取り組みを展開するブティージェッジ氏の姿を称賛しており、その点が全米の民主党有権者から注目され始めている。しかし、インディアナ州では民主党への支持基盤が弱いこともあって、サウスベンド市内の民主党支持者は国政レベルでは敢えて暮らし向き全般の大変革を志向する急進左派の候補を擁立して共和党との対立軸を鮮明にすべしとの意識が働きやすいのかもしれない。

ワシントン DC のシンクタンク研究員や弁護士、ニューヨークのエコノミストとの面談の中ではブティージェッジ氏に期待する意見が多かった。特に、他の候補者が高齢であることや、ブティージェッジ氏の従軍経験により本来共和党の支持層である中道右派の支持を得る可能性も指摘された。一方で同性愛を公表した初の大統領候補であることや国政経験の無いこと²など、得票にどのような影響を及ぼすかわからないファクターもある。更に、11 月 24 日にはブルームバーグ前ニューヨーク市長が出馬を表明したことから、今後、同じ中道派の同氏に支持が流れる可能性も出てきた。

異色の候補者とも言えるブティージェッジ氏がどこまで選挙戦を上り詰めていくことができるのか、今後注目したい。

² もっとも、トランプ大統領は政治の経験自体がなかったほか、オバマ前大統領も上院議員 1 期目途中で大統領選に出馬しており、必ずしも国政経験の乏しさが大統領選出への妨げになっている訳でもない。